

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572308005		
法人名	ホブシー有有限会社		
事業所名	グループホームホブシー		
所在地	秋田県潟上市天王字上北野71-8		
自己評価作成日	令和5年2月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人秋田県社会福祉士会		
所在地	秋田県秋田市旭北栄町1-5 秋田県社会福祉会館内		
訪問調査日	令和5年3月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルスの影響で面会制限をしていますが、入居者の家族との関係性を切らさないよう少しの変化でも、ご家族様に報告をしたり、自由に電話で入居者様とご家族様と会話する時間を作っています。又、棟内での様子を希望するご家族様にはLINEアプリでの写真送付を行う等の工夫をしております。外出も制限されていて地域の行事の参加も出来ませんが、感染対策を徹底し、出来る限りの楽しみを作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍であっても家族や地域、なじみの関係性を継続して行こう努力しています。職員が定着しており、ホームの理念に添い、利用者だけではなく家族にも寄り添ったきめ細やかな支援が提供されています。また、地域の理解も得られ、地域の行事の参加や防災訓練への協力があり、地域で暮らす生活者としての充実感を持つことができるよう取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を事務所内に掲げて共有している。年2回の職員へのヒヤリング時に理念の確認を行い、日々の業務で入居者の意向等を尊重した介護ができてきているか確認を行いながら取り組んでいる。	玄関やケアステーションに掲示するとともに、職員への聞き取りの際に、理念に沿ったケアについて確認をしている。また、利用者からの希望や要望を丁寧に聴きとり、利用者個々の思いに寄り添った支援の実践に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎朝、ゴミを捨てる際に入居者と一緒に行き、そのまま事業所周辺の散歩を行っている。その際に地域の方々との交流を図ったり、クリーンナップ活動等への参加を行い地域の一員として役割を持ち生活できるよう取り組んでいる。	町内会に属し、地域行事等へは積極的に参加している。コロナ禍で交流の機会は減少したが、清掃活動や周辺散歩の際は地域の人から話しかけていただけるなど地域の生活者としての交流が続けられています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域の方々毎朝交流を行う事で、認知症についての相談を受ける事がある。その際に症状に合わせた対応等を教えたり、周辺のケアマネジャーに引き継いだりして安心して生活できるように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を実施している。コロナウイルス感染症の関係で顔を突き合わせて実施する事が出来ていないが、町内会や市役所、事業所の様々な立場から質疑応答を行いサービスに繋げている。	コロナ禍により書面開催となっているが、政機関や町内会長と意見交換をしてサービスに反映するよう努めています。	対面開催が可能となった際には、これまでのようにテーマに沿った出席者や利用者、家族を交えた意見交換が活発に行われることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の関係機関へは、現状の問題等を伝え、困難事例についても相談を行い助言を得ながら取り組んでいる。	市の関係者に事業所の取り組みや要望を伝えたり、生活保護受給に関することや困難事例の相談等、連絡を密にしてサービス向上に繋げています。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナウイルス感染症の関係で外部から容易に入る事が出来ない様現在は、玄関に鍵をかけているが、感染症が流行る前までは鍵をかける事なく生活している。入居者が外に出たい(帰宅願望等含む)と意向ある際には職員が付き添い外出する事で本人の想いを尊重したケアを実践している。	ケアステーション内に身体拘束に関して掲示するなど、全職員が理解して取り組み、現在対象となる利用者はいません。	新型コロナウイルスの法的位置づけの変更に伴い、玄関ドアの開錠に向けての検討を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身元保証人が居ない方が入居される際に、包括支援センターへ依頼し成年後見人を付けて頂きました。実践から内部研修を行い必要性についての情報共有をしている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に口頭にて説明を行い、同意を得ながら契約を行っている。又、後に出てきた質問に関してもすぐに管理者へ報告しその日のうちに再度十分な説明を行い理解納得を得ている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	状況報告の連絡を兼ねて意見を頂けるよう努めています。頂いた意見についてはすぐに実践し自室の環境整備等を行い対応しています。	生活の様子は広報誌やLine、電話で伝えていきます。電話の際に意見や要望等を受けた時には内容を申し送りし共有し、サービスの向上に活かせるよう努めています。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	毎月各棟で職員会議を行い、意見や要望、提案を上げて貰い管理者が対応を行っている。代表者による判断が必要な物については管理者から報告して貰い、要望等を反映させている。	管理者はミーティング等で職員の意見や提案の把握に努め、運営に反映できるように取り組んでいます。また、代表者は管理者からの報告により、職場環境の改善に努めています。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	男鹿南秋のグループホームで集まりを定期的に行っており、参加する事で事業所間のネットワーク作りを行いながら情報共有を行い質の向上へ繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	キーパーソンやご家族からの情報収集を行い相談援助技術も用いながら関係作りに努めている。得た情報は記録に起こし、本人の情報を多く取っていき関係の構築を行っている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の施設見学時に家族からの要望や不安な事等を聞いた後、職員間で情報共有を行い、入居時に家族へ要望や不安な事等に対する対応方法について話し安心して貰えるよう声がけを行っている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活する仲間として協力していけるよう、グループで1つの作品を制作する環境を作ったりして、お互いが声がけしたり笑いながら作業できる環境を作っている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルス感染症の関係で面会ができない状態にあるが、本人と家族が電話連絡を行ったり、手紙のやり取りをしたりオンライン面会をしたりして対応している。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	職員が付き添い、家族の墓参りに行ったりしている。又、コロナウイルス感染症の関係で対面しての面会等ができない状態にあるので、電話や手紙を活用して交流を行って貰っている。	電話や手紙で関係性を継続しています。また、利用者本人及び家族からの聞き取りにより、利用者一人ひとりの生活歴を把握し、かかりつけの病院での診察や商店、美容室の利用でこれまでの生活の継続性に努めています。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各棟で本人がADLを活用できる事を行って貰い、貼り絵等を完成させている。作業中は各班で会話しながら取り組み共同作業でできた時の達成感を共通して味わう事ができるよう努めている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後にも連絡を頂いたり、事業所から連絡をして関係を維持している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	本人の居室にて、本人と職員と一緒にダンスの中を整理したりしながら、リラックスした状態で2人で会話し意向等を傾聴している。又、本人の行動や仕草等から職員同士で相談しながら、本人が望んでいるであろう事を本人を交えて実践している。	観察や日々のコミュニケーション、生活歴等から要望やニーズの把握に努め、職員間で情報を共有し、その人らしさを尊重した生活支援が行われています。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談時、本人から実施していて楽しい事、これまでの生活、これからの生活、やってみたい事等を聞いている。又、家族からそれら以外の興味があつた事等を聞き入居後の生活に取り入れるようにしている。入居後は、普通の会話から情報収集を行っている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	本人の意向等を日々の会話から聴取している。又、本人が住みやすい環境を作る為に家族等からも希望等を聞き取り、介護職員と一緒に介護計画書を作成している。	観察や利用者との日々のコミュニケーションから要望やニーズの情報収集に努め、モニタリングが行われ、利用者本人と家族の意向をサービス計画に反映させています。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	個人記録へ日々のちょっとした変化や経過を記録している。又、業務日誌等への記録も行い確実に全職員が把握できるよう情報共有を行った上で、介護計画書の見直しが必要であれば実施している。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染症の関係で、入居者と職員が毎日行っていたスーパーへ行く事ができない状態にあるが、地域の婦人部へマスクを作って貰い提供して頂いたり、マスクの型枠を頂き入居者と職員と一緒にマスクを作ったりしている。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週で訪問診療の利用。適宜、近隣のかかりつけ歯科医に受診し歯科検診を受けている。薬局については訪問診療後に薬の変更等を連絡したり、薬に付いての疑問等も薬局に連絡し指導を貰ったりして関係を構築している。又、変化があれば家族に連絡を取り家族の希望や医師の指示に合わせて総合病院への受診も行っている。	定期的に協力医による訪問診療が行われています。また、グループホーム利用以前のかかりつけ医への受診やかかりつけ薬局の利用、希望する医療機関での受診にも対応されています。体調の変化や処方に変更があった際は家族への連絡を密にしています。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の定期訪問看護を行って貰っている。その際に、皮膚状態や嚥下等について相談や確認をして頂き、医師への連絡を行い受診に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は、サマリーの発行以外に詳細に病院側に伝えられるよう口頭でも伝えるようにしている。入院中は、家族に定期的に連絡を行ったり、事業所側で洗濯物の引き取りや必要物品を持って行った時に病院(看護師)から情報を頂きながら関係を構築している。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人が元気なうちから終末期の話を少しずつ行うようにしている。本人の希望だけでなく、本人の希望を家族に伝えた上で家族の希望も聞き、事業所としてできる事を伝え納得して頂いている。お酒を飲みたいとの希望あった場合には、医師と相談し家族の了承のもと対応を行っている。	本人の意向を尊重しながら、家族へは毎年アンケートをとり意向を確認しています。事業所としてこれまでの看取りの経験を活かし医師、看護師、介護士と連携してご家族の協力を得ながら取り組んでいます。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々の状態把握を行い、経過等も記録するようにしている。職員が慌てる事がないように、急変時等に備えてマニュアルを活用しながら研修を行ったり、個別に指導している。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。夜間を想定した訓練を行い、職員1人、地域住民役1人と役割を決めた実践的な訓練を行っている。地域の方へは、災害時のご協力を定期的にお願ひしており、協力体制を構築している。	年2回、避難訓練を実施しています。非常時の際の職員の役割が明確であり、地域の防災担当者とも連携を深め協力体制が構築されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	視線を合わせた会話、適切な声量、傾聴を行っている。又、会話の内容に合わせて居室へ移動し他者の目が気にならない様、環境の配慮をして敬う気持ちで対応している。	利用者一人ひとりの個性を大切に、尊厳ある生活を意識したケアをしています。また、排泄ケアや入浴ケアは、同性介護を原則としています。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望する衣服から選んで頂き、職員が手伝い化粧をしたりしておしゃれを楽しめるように支援している。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ADLに合わせて調理から手伝って頂くようになっている。できる事を行う事で作る楽しみを持って頂き、希望メニューを聞き取りながら献立に取り入れ楽しんで頂くようになっている。又、片付けに関してもADLに合わせて、洗浄・食器吹き・下膳を行って貰っている。	調理から後始末まで利用者の生活者としての力が発揮されています。また、利用者の嚥下能力に合わせた食物形態に変更し、必要なサポートをしながら食事を楽しめるようになっています。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	希望メニューを取り入れながら一日を通して栄養バランスを摂れるようにしている。水分量に関しては水分を摂らない方が居るので、その時飲みたい物を提供したりして水分量を確保し、摂取量に関しては記録に残している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔洗浄の声かけを行っています。ADLに合わせて声かけのみ、誘導、介助を行い口腔内に残差物がないようにしっかりとうがいを行ってもらうようにしている。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人に合わせて定時のトイレ誘導を行っています。便座に座って頂き、無理のない範囲で着座保持して頂き排泄して貰えるよう声かけしている。	健康維持のため、排泄チェック表を用いて排泄の有無の確認をしています。また、利用者の身体状況やADLに応じた排泄用品が選択されています。	排泄の有無の確認だけではなく、健康を維持し、気持ちよく排泄するためには、利用者一人ひとりの排泄感覚を把握することが必要ですので、時間が確認できるチェック表への変更を期待します。
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操を行って貰ったり、町内の散歩等で適度な運動を行ったりしている。又、水分摂取を促している。食事に関しては繊維質の有るものを提供したりしている。必要に応じてかかりつけ医に相談し処方薬で調整を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	定期日以外にも、希望により入浴できるようにしている。時間も本人主導で決めて頂き対応している。健康状態に合わせて、短時間入浴にしたり全身清拭にて対応を行っている。	バイタルチェックやコミュニケーションにより利用者の心身状況を確認し、希望に沿えるよう配慮されています。また、浴室にはリフトが備え付けられ、リフト浴にも対応しています。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前の時間、リラックスできるようゆっくり職員と会話したり、自室で横になりテレビを観たりして安心して入眠できる環境づくりを行っている。不眠等訴える方には、かかりつけ医に相談し処方薬で快眠できるようにしている。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	状態変化があった際に、かかりつけ医に相談・報告し症状に合わせた処方を行って貰っている。かかりつけ薬剤師へ薬に付いて指導して頂いたり、相談に乗ってもらえるようにしている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴から役割を持って貰い、調理や食器洗浄、洗濯、洗濯干し、洗濯物たたみ、掃き掃除等を行って頂いている。又、時期に合わせて外出先を変え気分転換を行って貰い、楽しみを持った生活ができるよう支援している。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員が多い日には、ドライブに出かけたりしている。コロナウイルス感染症の関係で人混みがある所は行けていないが、人が少ない所や風通しが良い所等を入居者と一緒に考え、外出したりしている。	コロナ禍で外出の機会は減りましたが、近所での散歩は継続しています。また、一緒に畑を作ったりもしています。状況をみながらではありますが、花見など季節ごとの行事を取り入れる検討もしています。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に個人がお金を持ち自分で支払うようにしています。それ以外にも事業所へパンの販売等が来訪する際に購入したりしています。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時期に合わせて壁に絵などを貼ったりしています。又、廊下等暗く不快にならないよう日中から蛍光灯を付けたりしている。温度については、一定の温度となるよう居間、廊下に温度計を設置している。尿取りパット等の排泄物に関しては匂いが漏れない様新聞紙に包み、密封性が高いゴミ箱に入れている。	温度湿度計が設置され、職員は常に意識しています。床はクッション素材で不快音への配慮がされています。また、テラスへ通じる窓からの採光により、共有空間は明るく、かつ、季節を感じることができます。空気清浄機も備え付け、清潔に心がけた環境のなかで生活されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気を使わないよう席を配置し状況に合わせて変更したりしている。同テーブルの方と雑談したり、一人でもゆっくりとテレビを観たりできるよう環境整備を行っている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具(仏壇や写真)等を持ち込んだり、家族や友達との写真等を持ち込み環境の変化をなるべく少なくできるようにしている。	使い慣れたベッドや家具を持ち込み、在宅生活の延長上を意識した配慮をされています。利用者とその家族と相談しながら安心できる環境づくりをされています。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	靴置き場以外は、バリアフリーとなっている。又、廊下やトイレ内、浴室には手すりを配置している。車椅子同士が行き来できる廊下幅になっており、歩行器を使用した歩行訓練ができる。又、本人・家族の許可のもと、居室には表札を設置したり、トイレドアにも表示している。		